

B 風水害

①気象情報に注意する

テレビやラジオ、電話（177）、インターネットなどを利用して、警報・注意報などの情報に注意する。

②むやみに外出しない

止むを得ず外出する際は、天気予報を確認し、少しでも危険を感じるところには近づかない。特に、堤防・海辺・河川への見物は事故のもと。

◆ 風が強いとき

路上にいるとき…瓦や看板が飛んだり、街路樹などが倒れたりする。近くの頑丈な建物に避難すること。

屋内にいるとき…風圧や飛来物で窓ガラスがわれ、破片が吹き込む危険があるので、風が強いうちは窓に近づかないこと。

海辺にいるとき…速やかに高台へ避難すること。強風や豪雨の時には、警報が聞こえないこともあるので、十分に注意すること。



◆ 大雨のとき

河原にいるとき…急な増水の危険がある。川などに近づかないようにすること。

車を運転しているとき…既に浸水している道路にさしかかったら、水の横切る方向へ移動し、高台へ避難すること。

路上にいるとき…浸水してきたら、しっかりした建物の3階以上へ避難すること。

【避難するときは】

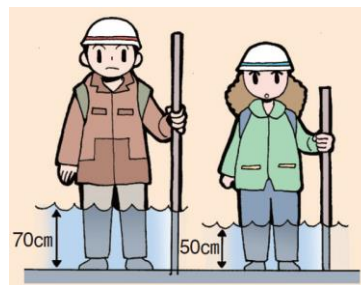
①動きやすく安全な格好で避難

ヘルメットや防災頭巾などで風で飛ばされてくるものから頭を保護し、

滑りにくい靴を履くこと。荷物は最小限に、両手がふさがらないようにすること。

②深さに注意

歩行可能な浸水は、男性で70センチ、女性で50センチがめやす。ただし、くるぶし程度の浸水でも、流れが激しい場合は歩行せずに、高いところで救援を待つこと。



③足元に注意

水面下にはふたの外れたマンホールや側溝などの危険な場所がある。長い棒などを杖代わりにして足元の安全を確認しながら歩くこと。

④一人で行動しない

集団で避難すること。
はぐれないように体の一部をロープで結ぶとよい。



⑤子どもや高齢者などへの配慮

高齢者や病人等は背負い、子どもには浮き輪をつけるなど、安全を確保すること。

⑥避難所が遠いとき

真っ暗闇ですでに浸水している場合など、避難所へ行くのが困難な場合は、近くの3階以上の建物に一時避難すること。

3-1-(3) 避難生活のために

避難所は、地域活動協議会（連合振興町会）が中心となった自主防災組織が避難所運営委員会を開き、生活のルールや役割分担などを決めることになっている。みんな、つらい思いをしているので、お互いを思いやり、協力しあうことはもちろん、定められた決まりを守り、“自分たちのことは自分たちで”を基本に、協力して生活することが大切である。

また、感染症流行時には、マスクの着用、手洗い、うがいなど感染予防に努めましょう。

避難所生活の心得

災害時避難所では、大勢の人と共同生活を送ることになります。プライバシーの確保が難しいなど、不自由なことがたくさんありますが、互いに協力しあい、譲り合うことが大切です。

周りの方への心配りをしましょう

みんな、つらい思いをしています。お互いを思いやり、困っている人がいたら助けるなど、協力し合いましょう。



水が出ない

断水が生じた場合は、飲料水が災害時避難所で配られます。また、応急給水の拠点も開設されます。水を運ぶためのポリタンクやバケツを準備しておきましょう。運ぶことが困難な人もいますので協力しましょう。



食べ物は

災害用のアルファ米や乾パン、流通事業者からの弁当・パンなどが災害時避難所で配られます。避難所で生活していない場合も食料が必要な場合は、取りに行きましょう。取りに行くのが困難な人たちがいますので助け合いましょう。

生活関連物資

毛布などの生活必需品は、住家に被害を受けて日常生活が困難になった人に災害時避難所で支給されます。避難所で生活していない場合も必要に応じて取りに行きましょう。

生活のルールや役割分担を決めましょう

地域防災リーダーや自主防災組織のメンバーなどの皆さんが中心となって避難所運営委員会を開き、生活のルールや役割分担を決めましょう。



ペットも家族

ペットも大事な家族の一員です。「非常持出品」の中にペット用品も用意しておき、ルールに従い周りの人に迷惑をかけないように心がけましょう。



病気やケガをしたときは

避難所などに、救護所が設置されます。病気やケガをしたときは、救護所を利用しましょう。

<救護所の役割>

傷病に対する応急手当
近隣の医療施設との連携など

食中毒や感染症を防ぐ

災害後は衛生環境が悪化し、食中毒や感染症が発生しやすい状況になります。配られた食料はできるだけ早く食べましょう。食事をするときや調理をするときは手洗いを十分に行いましょう。また、断水の場合は、消毒液などを利用して手をきれいにしましょう。

生活のルールや役割を守りましょう

避難所運営委員会で決めたルールや役割をみんなで守り、“自分たちのことは自分たちで”を基本的に協力して生活しましょう。



こころのケアが大切

災害の被害や避難所生活などで誰もがこころにダメージを受けストレスを抱えます。規則正しい睡眠や食事などを心がけ、日常生活を取り戻すことが心の傷を和らげます。不安な場合は救護所などで早めに相談しましょう。



多様なニーズへの配慮を

高齢者、障がい者、男女のニーズの違いなど多様な視点に配慮しましょう。また、女性専用の物干し場や更衣室、授乳室の設置など、女性や子育て家庭のニーズへの配慮が必要です。